

「世界経済の危機と格差・貧困問題の行方」

今回の世界経済危機は、そのピークから数ヶ月が経ち、結局、過剰な信用供与が原因だったのであり、そのメカニズムは「奇妙に単純に見える」と言われ始めた (*The Economist*, January 24-30, 2009)。そして、皮肉なことに、金融市場がふたたび活性化するのは、「危機からの教訓が忘れ去られた時だ」(同誌)、というのも事実であろう。約30年にわたる競争的市場経済の嵐の後、世界はパラダイム・チェンジの中にあるかに見え、「経済学説の相対性」という言葉が頭をかすめる。他方、我々は、突然の不況の中で深刻化する、格差・貧困問題の厳しい現実にも直面している。

大阪市立大学経済学研究科では、まさにこのような問題のエキスパートとして活躍する金子勝氏をお招きし、「世界経済の危機と格差・貧困問題の行方」をテーマとしたシンポジウムを開催する。広く関心のある皆様方の参加をお待ちしています。



Information

- 日時・場所**：2009年3月17日(火) 13:00～16:30
大阪市立大学学術情報総合センター10F大会議室
- 基調報告1**：金子 勝(慶應義塾大学)
「世界経済の危機と格差・貧困問題の行方」
- 基調報告2**：佐藤 光(本学)
「カジノ資本主義以後の世界と日本の再構築」
- 論点提起**：(重点研究担当者)中村健吾(社会思想史)
中村英樹(マクロ経済学) 柴田淳(流通経済論)
大西祥恵(社会政策)
- 司 会**：大島真理夫(日本経済史)